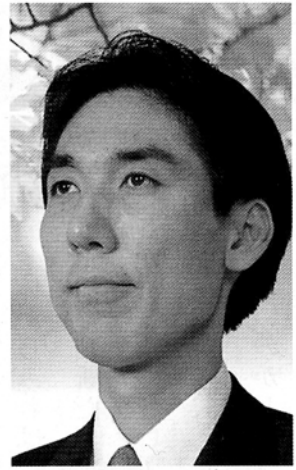


# 城内 実の視点！ 時代を考察する(4)

——「改革」にダマされるな！——



前衆議院議員・拓殖大学客員教授 城内 実

「改革」にダマされるな！」(PHP研究所) という本がいま密かに話題になっている。この本は、『奪われる日本』(講談社現代新書)の著者の関岡英之氏と精神科医で『受験は要領』はじめ数多くの著作を有する受験勉強の神様で有名な和田秀樹氏との共著である。

読者のみなさまも是非この『改革』にダマされるな！』を購入の上、お読みいただきたい。先日関岡英之氏にお会いした時に、「ノンフィクション作家としてのプライドをかなぐり捨てて、難しい文体を極力排除し、とにかくわかりやすく書いた」と述べておられた。目からうろこの本である。日本国民必携の書である。

いまだに「改革、かいかく、カイカク」と耳にたこができるくらい新聞や雑誌、テレビの報道番組で「カイカク」という言葉が氾濫している。政府の有識者会議のメンバーたちも、政府の「改革」を推進するためか、それとも自分たちのビジネス・チャンスを拡大するためか、よく分からないが、「カイカク、カイカク」と連呼している。「経済財政諮問会議」、「規制改革・民間開放推進会議」、「教育再生会議」といった諮問会議の構成員は、われわれ国民が選挙で選ん

だ人たちではない。誰がどのような基準で選ぶのか、彼ら民間議員の影響力はどれくらいなのか、結果責任をとるのかどうか、その実態を国民はほとんど知らされていない。にもかかわらず、国の重要な政策をどんどん決めていく。こわくてしかたがない。

本来自民党は保守政党である。日本の良き伝統文化や制度を、時代にそぐわない部分はもちろん一部修正をほどこすものの、その根本精神はいつまでも保守しなければならぬはずである。ところが、国民は「今すぐ改革を断行しなければ日本は世界(グローバルイズム)から取り残される」、「バスに乗り遅れるな」と言わんばかりに「カイカク」なるものに駆り立てられている。

解散・総選挙までしてあれだけ大騒ぎした郵政民営化問題にしても、現時点で郵政民営化の中身を本当に理解している国民は1%にも満たないと断言できる。また、与野党あわせて、当時郵政民営化法案の中身を十分に理解していた国会議員は衆参あわせてほんの十数人しかいなかったと思う。私自身法案の中身を理解していなかったら、他の多くの自民党議員と同じよう

に官僚の説明をそのまま鵜呑みにして、何のた  
めらいもなく、賛成票を投じていたであろう。  
これが国会議員の実態である。

もし、郵政民営化をはじめとする一連の構造  
改革の中身、すなわち真相を国民が知ることと  
なったら、それこそ暴動が起きかねない。それ  
だけにマスコミ対策は用意周到になされていた。  
政治評論家の森田実先生から直接お聞きした話  
であるが、郵政民営化に反対の立場の森田実先  
生のような論客はある時点からテレビ局から全  
く声がかからなくなったそうである。

ところで、郵政民営化問題のみならず、医療  
制度改革という、国民にとって最も身近な問題  
についても、実はアメリカによる年次改革要望  
書に沿って行われていることを関岡英之氏が暴  
露している。先日ある対談で和田秀樹氏とお会  
いした時にも、和田先生より詳しく説明して頂  
き、その内容に愕然とした。

小泉政権最後の国会で成立した医療制度改革  
法案は、高齢者の自己負担を増やすと同時に、  
二度にわたって病院や診療所の診療料を決める  
診療報酬を引き下げた。つまり、医療について  
は、政府の負担が減り、そのつけが全て国民と

医療従事者に回されたわけである。

医療サービスを受ける国民の視点からはこれ  
は「改革」というよりも「改悪」でしかないの  
であるが、不思議なことになぜか郵政民営化と  
同様に国民はなんとなく負担が増えたことを感  
じつつも、その中身を知らされていない。

ここにも、日本国民が性善説に立って、政府の  
行う「改革」はきつと国民にとってプラスに違  
いないと信じる人の良さが現れている。

患者の自己負担が高まれば、公的保険でカ  
バーされる範囲が事実上縮小することになる。  
そこで、自己負担分をカバーするための民間保  
険が誕生する。小泉政権の下で進められた医療  
制度改革は、公的医療費を抑制して、民間保険  
会社のビジネス・チャンスを拡大することに過  
ぎない。そうだとすると、郵政民営化と同じく、  
日本国民に対するさまざまな福利厚生を犠牲に  
して、結局外国資本の利益を増すだけの改革と  
はならないか。

国民皆保険でほとんど公的保険でカバーされ  
ている日本と、民間保険が主流のアメリカと比  
較するとどうなるか。WHO（世界保健機関）  
の格付けによると、日本の医療は先進国で堂々

の一位。アメリカはなんと先進国では最低の評  
価である。また、国民一人あたりの年間の医療  
費支出は、日本が約三十万円であるのに対し、  
アメリカは約六十万円と二倍かかる。  
「官から民」への行き着く先が実は国民負担  
の増大だとすると、国民は黙っていないのでは  
ないか。

#### プロフィール

#### 城内 実（きうち みのる）

- 昭和四〇年 四月一九日生まれ
- 平成元年 東京大学教養学部国際関係論分科を卒  
業し、外務省に入省
- 平成二年 在ドイツ日本国大使館勤務
- 平成九年 天皇陛下、総理等のドイツ語通訳官
- 平成一四年 外務省を退官し、公募に応募
- 平成一五年 衆議院議員初当選（無所属）
- 平成一六年 党改革実行本部幹事
- 平成一七年 農林水産委員会委員、環境委員会委員、  
郵政民営化特別委員会委員
- 平成一七年 第四十四回衆議院選挙にて七四八票差  
で惜敗
- 平成一八年 拓殖大学客員教授